

令和6年度岡山県農林水産総合センター水産研究所試験研究課題評価結果票

＜事前評価＞

- 総合評価凡例
- | | |
|------------------------|-------------|
| 5：優先的に実施することが適当 | 4：実施することが適当 |
| 3：計画等を改善して実施することが適当 | 2：実施の必要性が低い |
| 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要 | |

番号	R6年度-事前1						
課題名	海域の植物プランクトンの組成変化と情報発信に関する研究						
課題の概要	研究所が継続的に取得しているサンプルを用いて、近年の海水温の上昇や栄養塩の低下による植物プランクトンの組成や量の変化を明らかにする。次に、植物プランクトンの培養試験やマガキへの給餌試験を通じて、組成や量の変化が上位の生物に与えた影響を評価する。さらに、調査で得られた植物プランクトンデータの情報提供体制を構築する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	3人	2人	1人	人	人	4.3
	有効性	人	3人	3人	人	人	3.5
	効率性・妥当性	人	4人	2人	人	人	3.7
	総合評価	1人	4人	1人	人	人	4.0
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養塩濃度の低下が漁獲量減少の大きな原因と考えているが、その科学的根拠を示すことで今後の施策の進展が期待できる。 ・ ノリ・カキ養殖にとって植物プランクトンの情報は重要で、栄養塩やクロロフィルaの情報とともに、迅速に提供できる体制整備を期待します。 ・ 海で起きている現象とその変化について理解が深まると、ノリ養殖やカキ養殖に関して今以上の的確なアドバイスが可能になる可能性がある。 ・ 植物プランクトンの種組成の変化を明らかにすることは、海域環境を評価するうえでの基礎情報として、意義が大きいと考えられる。 ・ 研究によって得られることが想定される植物プランクトンの構成種に関する知見について、現場の漁業者にとってメリットのある形での情報発信につながるように、成果活用を進めていただきたい。 ・ 組成の変化を調べるということは生態系ピラミッドの健全性を知る上で大変重要な事だとわかりました。一方で、種類の偏在にどのように対応していくのが有効なのか考えさせられました。 ・ 研究の成果をさまざまな方面へ応用できることを期待します。 ・ 過去35年間の珪藻のプランクトン組成変化は明らかになるが、カキへの影響は明らかになりにくいと思われる。有用な植物プランクトン（珪藻）は見出せる可能性はある。 						

注意事項

- ① 各評価委員の評価内容を基に、重複する評価内容を取りまとめて記載する等、簡潔にとりまとめてください。また、この資料は、HPで公表する予定ですので、特定の個人を指す事例や特許取得等に支障がある内容は表現を改める等、個人情報の保護や知的財産権の取得等に支障がないよう、配慮してください。
- ② 評価結果欄は全ての項目について、得点を付けた人数を記載し、平均点を少数第1位で記載してください。

令和年度岡山県農林水産総合センター水産研究所試験研究課題評価結果票

<中間評価>

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
 1：中止すべきである

番号	R6年度-中間1						
課題名	浅場のガラモ場再生手法の開発						
課題の概要	ガラモ場を構成するホンダワラ類の増殖方法は、コンクリート礁など付着基質の設置、胞子を供給する母藻の投入など多様な手法が開発されている。水深が浅く透明度の低い本県海域において、既存の手法を浅場に応用し、現場で実施可能な増殖手法や適地選定方法などを提示する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	人	1人	3人	2人	人	2.8
	〃（阻害要因）	人	人	3人	3人	人	2.5
	必要性	3人	3人	人	人	人	4.5
	有効性	2人	4人	人	人	人	4.3
	効率性・妥当性	人	2人	3人	1人	人	3.2
	総合評価	2人	2人	2人	人	人	4.0
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・順調に進捗しているようだが、現場での実施可能な再生手法を示すためには、もう少し詳細なデータ収集が必要と考えます。冬期に繁茂するため、あと2カ年では1回のみでの繁茂期調査しかできず、十分な状況把握ができない可能性もあることから、さらに2カ年ほど試験期間を延長してデータ量を増やし、わかりやすいマニュアルを作成していただきたい。 ・自然界でホンダワラ類を増やそうとしているのか、あるいは養殖の可能性も見据えているのか中間報告書の記述も中途半端にみえる。計画書には「手法が開発されている」と記載しているが、その技術を試したと思える浅海域での実験結果は失敗ともいえるレベルで、同じような試験を繰り返しても成果があがるとは考えにくい。奮起を期待する。 ・成果の活用に向けて、将来的には、岡山県内の海域においてガラモ場の再生が可能なエリアの抽出が必要になると考えられる。 ・研究機関終了後も長期に及ぶ情報収集などが必要になると思います。 ・自然環境下で天然の生きものを活着させ増やすことは容易な事ではないと思います。ぜひこの再生手法を確立させ、マニュアル化して民間にも広がればすばらしい。アマモにとっての里海研のような組織ができることを願います。 ・アカモクの食材としての利用も検討していただきたい。 						

注意事項 事前評価と同じ

令和6年度岡山県農林水産総合センター水産研究所試験研究課題評価結果票

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	R6年度-事後1						
課題名	水産物調理品のおいしさの見える化研究						
課題の概要	県産水産物調理品の美味しさを科学的根拠に基づいて見える化し、消費拡大や付加価値向上の推進に寄与する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	3人	2人	人	人	3.8
	有効性(効果)	2人	人	4人	人	人	3.7
	有効性(目的以外の成果)	1人	2人	3人	人	人	3.7
	効率性・妥当性(費用対効果)	1人	1人	4人	人	人	3.5
	効率性・妥当性(計画)	人	3人	3人	人	人	3.5
	成果の活用・発展性	2人	1人	2人	1人	人	3.7
	総合評価	2人	3人	1人	人	人	4.2
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> 色落ちノリ対策の可能性が示され、その発展に期待します。 加熱による味の変化は予想どおりだが、数値で明確に示すことができたことは、魚食PRにつながる成果と考えます。 成果自体はおおむね予想されたレベルだが、情報発信が優れていたのか業界を巻き込んでクロダイの美味しさがたびたび報道される現状は喜ばしい。地魚の消費拡大になお一層取り組んで欲しい。 得られた研究成果について、岡山県産水産物のおいしさの魅力発信や普及に、さらにつなげていただきたい。 今後も地魚の情報を提供していただいて消費者がおいしく食べられるヒントになればうれしいです。 「水産物の魅力を発信し、消費を増やす」事がすべてだと思います。このような活動は、消費者の反応を敏感にとらえながら常に取り組んでいく必要があると思います。 得られた結果が岡山県の食品、食材のPRにつながっている感がない。スーパーマーケット、TV、新聞、SNSなどで更なるPRが必要。 						

注意事項 事前評価と同じ